

木造薬師如来坐像



〔登録年月日〕昭和六〇年三月三〇日
〔種別〕有形文化財（彫刻）
〔名称〕木造薬師如来坐像
〔点数〕一軀
〔所有者〕医王寺
〔所在地等〕上高井戸一―二七―一五

木造薬師如来坐像

像高四〇・八cm、膝張三三・四cm、臂張二六・一cm、面長九・一cmの檜材と思われる奇木造りで玉眼、肉髻珠、白毫には各々水晶を嵌入している。

光背は二重円光、全高六四・八cm、最大幅五三・三cm、台座は全高三一・二cm、下框張五一・五cmの蓮華七重座である。この仏像は医王寺の本尊で、西向きに安置されていたため通称「西向き薬師」として知られ、眼病に靈驗あらたかと広く庶民の信仰を集めたものである。

作風は鎌倉時代の正統を忠実にふまえており、細部にまで整理の行きとどいた彫造である。しかし、細い目、ややゆるみがちなる肉付など、全体に形式化はさげられず、そこにおのずと江戸前期の主流仏師の作と想定させるものが現れている。なお『新編武蔵風土記稿』では「薬師は一尺二寸ばかり」と伝えている。

本像は小像とはいえ、寺の開創当時から医王寺に安置されていたものと考えられ、江戸時代彫刻界の一傾向を示す遺品である。

【文化財所在地】

